

博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学	分野	理学療法学分野
学籍番号	14S3018	院生氏名	木村 和樹
通学キャンパス	大田原キャンパス		
論文題目	糖尿病性多発神経障害が身体機能に及ぼす影響		
審査結果 (枠で囲む)	合格		
<p><審査結果の要旨></p> <p>本研究は糖尿病療養指導において、短時間で実施することができる新たな評価指標を示すことが目標である。糖尿病療養指導では、十分な介入時間を得ることができず、糖尿病患者に対してすべての身体機能の評価を行うことは困難である。そこで、糖尿病教育入院された 75 歳未満の 2 型糖尿病患者 76 例 (男性 52 例, 女性 24 例) を対象に、糖尿病性多発神経障害と関連のある身体機能項目の分析と後方/前方歩行速度が新たな評価指標と成り得るか検証した。</p> <p>研究 1 では Semmes-Weinstein-Monofilament を用い、糖尿病性多発神経障害群は足底触圧覚閾値が高値を示すことを明らかにした。研究 2 では身体機能の低下を示す糖尿病性多発神経障害の関連因子として後方歩行速度が重要であることを示した。さらに、研究 3 では糖尿病性多発神経障害の進行に伴い後方歩行速度の低下と後方/前方歩行速度比が低値を示すことを明らかにした。以上より、糖尿病性多発神経障害の重症化は、後方歩行速度の低下と後方/前方歩行速度比に影響することが示され、注目すべき新たな評価指標として提案された。本研究の新規性は、糖尿病性多発神経障害が後方歩行速度に及ぼす要因の分析であり、機能低下を余儀なくされる糖尿病性多発神経障害の理学療法に貢献する研究として高く評価できる</p> <p>審査会は 11 月 25 日に開催した。糖尿病療養指導の際に糖尿病性多発神経障害の影響を短時間で見極める評価指標として後方歩行速度と後方/前方歩行速度比に焦点を当てた意義ある研究であるが、以下の点が不十分であることが指摘された。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 論文全体の構成 2. 分析対象者の取り込みおよび除外基準の見直し 3. 小脳機能の低下に伴う身体機能への影響 4. 評価方法の説明 (Semmes-Weinstein-Monofilament, 片脚立位, TUG, 歩行) 5. 後方歩行における視覚情報の定義 6. 結果の追加および修正 (性差による影響, 血液データ) 7. その他 (不適切箇所の削除と誤字等の修正) <p>以上について論文の修正を求めたところ提出期限内に適切に加筆、修正された。</p> <p>以上の結果から、審査会の審査員全員は本論文が著者に博士 (保健医療学) の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p>			
論文審査担当者	<p>主 査 堀本 ゆかり</p> <p>副 査 渡邊 治雄</p> <p>副 査 糸数 昌史</p>		